

陽射しも日に日に強くなり、融雪も進み平地の水田では雪がほとんど無くなってきております。いよいよ春の作業が忙しくなってきます。

圃場管理について

露地の畑は水田に比べて融雪が遅くなります。ジャガイモの植え付けまで後2週間程ですので、雪が残っている畑では融雪剤(くん炭や草木灰など)を散布しておきましょう。融雪水が滞水している所があれば排水しておきましょう。

今年は積雪が多かったため、越冬した野菜は地面に押し付けられています。雪が消えて土がなぶれるようになったら、「そさい3号」を㎡当たり20~30g施用し中耕しておきましょう。前年からの取り残し野菜も順次始末し、石灰を散布しておき春作の準備にかかりましょう。

ハウスは既に初夏の気候で、作物も伸びだしています。アブラムシなどの害虫はハウス内の作物の生長点付近や、隅に生えている雑草の中で動き出し始めています。雑草の始末をしておきましょう。また、陽射しが強くなっているためハウス内の乾燥も進みます。葉物やマメ類がしおれないよう注意してください。なお、3月はハウスの内外での温度差が30以上となりますので、出入りが頻繁になると温度差の為、いわゆる「ハウス病」で体調を崩し易くなりますので充分注意して下さい。

前号で土壌分析について書きましたが、作物が順調に生育するためには、化学性、物理性、生物性がよい状態にあることが必要です。土壌分析は化学性を診断するものです。土壌物理性は、柔らかく排水性と保水性がよく(余分な水は持たない土壌)、耕土が深いことが求められます。土壌化学性と違って物理性は目で見て、土に触ってみて判断できる項目ですから、生産者が自ら改善に取り組みます。丹南の施設では特に耕盤の形成が進み、根が深く入られない圃場が多くあります。このことは、支柱立ての作業で、支柱が入らないことで経験されていることと思います。耕起作業において、3~4年に一回は深耕を行なっておくことを心がけましょう。

播種について

既にハウスでは果菜類の播種が始まっています。丹南では4月20日頃まで遅霜の可能性が有ります。この時期は温度の上がり下がり大きく管理が大変です。特に高温による障害は短時間で取り返しのつかないこととなりますので注意して下さい。播種に当たっては電気温床線の断線が無いが、サーモは正常に機能するかを通电して確認しておいて下さい。最近温床マットの利用が多くなっていますが、敷設については断熱能力のある下敷きを敷いて下さい。

定植準備について

ハウスでは3月下旬から定植が始まります。定植までに地温を15以上確保しておかなければならないので、定植予定の10日程度前には畝を成形し透明か緑マルチを行なっておき、地温の上昇を図っておかなければなりません。また、厩肥を含んだ堆肥を施用する場合は、定植予定の少なくとも1ヶ月以上前には土壌混和しておく必要があります。春は時間があるようではなかなかないものです。

越冬野菜について

先に記しましたが、土がなぶれる状態になりましたら、速効性の「そさい3号」を施用して、中耕しておきます。また、病害予防としてダコニールやジマンダイセンを散布



融雪直後の春キャベツ圃場



ハウスの上土をめくって露出した耕盤。スコップも刺さらない。



ミディトマト圃場の土壌。

しておきましょう（作物によって違うので、農薬使用基準を確認のうえ使用してください）。エンドウなど蔓ものは出来るだけ早く、棚を作っておきましょう。

ミディトマト苗について

ミディトマトをプラグ苗で予約された方は、入手後 10.5 cm鉢に鉢上げ育苗した後に定植するようにして下さい。プラグ苗をそのまま定植することは、生育障害が発生する確率が高くなるので、春作では行わないようにして下さい。



施肥し、中耕しておく。

温度管理について

メロン		播種～発芽	発芽～鉢上げ	鉢上～定植3日前	定植直前
日中	気温	28～30	28～30	26～28	22～26
	地温		25	23	21
夜間	気温	28～30	22～24	20～22	16～18
	地温		25	22	16
備考		新聞紙、コモで被覆。	鉢を乾かさないうち注意する。		序々に寒さに慣らす。

ブロッコリー		播種～発芽	双葉展開時～	～定植3日前	定植直前
日中	気温	25～30	20～25	18～20	序々に寒さに慣らす。
	地温		10～15	10～15	
夜間	地温・気温	20～25	15～20	13～15	
備考		新聞紙で被覆。	鉢を乾かさないうち注意する。		

マルチの選択について(種類と機能)

マルチは肥料流亡を防ぎ、土壌を柔らかい状態で保つとともに、地温保持や抑制、雑草発生の抑制、乾燥防止等の目的で使用されます。作物の生育促進効果は明らかで、敷設の効果は高いがマルチの選択が適当でないと効果を発揮できなくなります。

透明マルチ・・・主にハウスで使われます。春先で地温確保が必要な時に使う。特にハウスの3～4月に定植する果菜類は、地温が15以上必要なので、最も昇温効果の高い透明マルチを使います。雑草への対処は、マルチの端をしっかりと抑えておけばマルチ内の雑草は高温で生育不良になります。

黒マルチ・・・雑草抑制の目的で主に露地栽培で使われるので、春先に使うと地温が上がらない。従って5月以降の植え付けから使うのが適当である。高温期は直射日光でマルチ面の温度が非常に上がるため、植えた苗の葉がマルチに触れると部分的に枯れる事がよくあります。

シルバーマルチ・・・雑草と地温抑制、並びに光の反射によりアブラムシの忌避効果も期待できる。従って、7月以降の露地圃場で使用されることが多い。このマルチは伸びが少なく、裂けやすい傾向がある。

緑マルチ・・・ある程度光を透過する。しかし、雑草の生育を促す光線の透過は少ないため、地温確保と雑草抑制の両方の目的で使用される。ハウス内で良く使われる。

白黒ダブルマルチ・・・表面が白色、裏面が黒色の張り合わせマルチで光線を通さないため、雑草防止と夏季の地温抑制を目的とし、苗が焼けることも無いので露地栽培使われる事が多い。

敷きワラ・・・マルチフィルムではないがワラは雑草発生

抑制、乾燥防止、夏場での地温

抑制、泥の跳ね返り防止などに有効であるばかりでなく、スイカ、メロン、カボチャなどの蔓がワラを掴むため安定するのでよく使われる。

その他、特殊なものでは網マルチ、有孔マルチ、銀黒マルチ、ストライプ入りマルチなどがある。